

宝林宝樹

(60)

わたし、待っているからネ！



「お母さん！ 私死んだら何処へ行くの？ 教えてよ！ お母さん！」と、二十歳になったばかりの一人娘さんが、当時はまだ聞きなれない「白血病」という病魔におかされたのです。治療の方法も策もなく（四十年後の現在もそうらしいですが）、だた、死を待つばかりの日々でありました。

「あなたは絶対死なないんだからネ！」と繰り返していたお母さんも、極度に衰弱が進む状態に耐えられなくなって、とうとう「あなた死んだらネ、仏さまの国にいくのよ！」と、娘を抱きしめて、呻くように叫ばれたそうです。その時返ってきた返事が「アッそう！ だったらお母さんも後で来るんだよネ！ 私、待ってるからネ！」でありました。

このお母さんも、先日、令和八年三月、八十八年の人生を終えられ、お浄土に還って逝されました。「お母さん！ 待ってたのよ！」と抱き合って、再会を喜んでおられることでしょう。その様が私の脳裡に浮かんでくるのです。

宝林宝樹

(60)

わたし、待っているからネ！



「お母さん！ 私死んだら何処へ行くの？ 教えてよ！ お母さん！」と、二十歳になったばかりの一人娘さんが、当時はまだ聞きなれない「白血病」という病魔におかされたのです。治療の方法も策もなく（四十年後の現在もそうらしいですが）、だた、死を待つばかりの日々でありました。

「あなたは絶対死なないんだからネ！」と繰り返していたお母さんも、極度に衰弱が進む状態に耐えられなくなって、とうとう「あなた死んだらネ、仏さまの国にいくのよ！」と、娘を抱きしめて、呻くように叫ばれたそうです。その時返ってきた返事が「アッそう！ だったらお母さんも後で来るんだよネ！ 私、待ってるからネ！」でありました。

このお母さんも、先日、令和八年三月、八十八年の人生を終えられ、お浄土に還って逝されました。「お母さん！ 待ってたのよ！」と抱き合って、再会を喜んでおられることでしょう。その様が私の脳裡に浮かんでくるのです。